

当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画(案)

平成 21 年度

当別町地域公共交通活性化協議会

平成 21 年 3 月

平成 21 年度 当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画 目次

1 .	コミュニティバス実証運行	
1 . 1	当別ふれあいバス実証運行事業	1
2 .	設備の充実	
2 . 1	待合所の設置	2
2 . 2	バス車両の購入	3
2 . 3	音声映像案内システムの追加	3
3 .	利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供	
3 . 1	モビリティマネジメントの実施	3
3 . 1 . 1	小中学生向けモビリティマネジメント	
3 . 1 . 2	大学生向けモビリティマネジメント	
3 . 1 . 3	ニュースレターの発行	
3 . 1 . 4	交通マップの作成	
3 . 2	バス祭りの開催	4
3 . 3	バイオディーゼル燃料の利用促進とオフセット・クレジット事業の実施	5
3 . 4	インターネットホームページの開設とコンテンツの作成	5
3 . 5	利用促進事業の実施	5
3 . 5 . 1	利用促進ツアー等参加型事業の実施	
3 . 5 . 2	小中学生向け移動展示会とバス音声録音会やの実施	
4 .	調査・研究等	
4 . 1	OD・アンケート調査事業	6
4 . 1 . 1	アンケート調査	
4 . 1 . 2	OD調査	
4 . 2	デマンドシステム導入調査	6
4 . 3	バス利用者向けワークショップの開催	6

1. コミュニティバス実証運行

1.1 当別ふれあいバス実証運行事業

昨年実施した当別ふれあいバスの実証運行を参考に、次のことを実施する。

・基本路線の利便性向上と市街地循環線の充実

実証運行開始時から運行している、西当別・あいの里線、みどり野・青山線、金沢線を、JR学園都市線の接続時間の短縮と、乗降者データを基に時刻の改正を行い、基本路線の利便性向上を図る。

また、市街地循環線においては、便数を増便するとともに、同一方向を連続して運行し、乗り越しを可能とすることで利便性を高めるとともに、小中学校の登下校時間帯に路線を増加し、モビリティマネジメントと連動することで、利用者数の増加を図る。

これらの利用者数の増減については、通常行っている乗降者調査に加えて、OD調査を実施して、昨年と利用者数の比較を行う。

・レールアンドバスライド+DR T型バスシステムの検証

昨年4月から運行を行っている、23時58分札幌発あいの里公園行の最終便に合わせたDR T型深夜バス「SuiSui ふれバ」を今年度も実施する。利用者の増加策の実施と、曜日や時間帯についての検討を行う。

・物流システムの実証

平成20年度に調査した結果を基に、車両を用いた物品の回収とバス停間の荷物の輸送の2種類の実証運行を行う。車両を用いた物品の回収については、既に実施している使用済みてんぷら油のバス車内での回収のほか、町内の図書館と連携して貸し出し図書返却をバスで行う。バス停間の荷物の輸送については、北海道医療大学と同あいの里キャンパス間で実験を行い、導入に際しての問題点等の検証を行う。

・小中学生向け長期休暇限定定期の販売と100円回数券の販売

利用促進の一環として、夏休み冬休み期間中の限定定期を販売する。学校モビリティマネジメントと連動することで、販売の促進を図る。

また現行の回数券が200円用のみの販売で、100円で利用できる小学生や障がい者を対象としていなかったため、100円利用者用の回数券を販売する。

通常路線概要

路線	平日～7系統 85便、土日祝日～2系統 31便
運賃・応援券	運賃 : 1路線 200円(小学生、障がい者、介護人半額)
	応援券 : 1ヶ月 4,000円、3ヶ月 10,000円、6ヶ月 16,000円 (小中高校生、障がい者、介護人半額)
	長期休暇限定定期 : 1,000円(小中学生限定)
回数券	一般用 : 12枚綴り 2,000円
	小学生・障がい者・介護人 : 24枚綴り 2,000円

SuiSui ふれバ概要

路線	金曜日、土曜日のみ運行、20時までに予約 乗車はJRあいの里公園駅のみ、降車はバス路線のバス停すべて
運賃	1,000円（応援券利用者は500円）

運行系統・運行回数

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.5 km	8 便		土日祝日運休 一部乗り越し可
市街地循環線 (降順コース)	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.5 km	7 便		土日祝日運休 一部乗り越し可
西当別線	J R 石狩当別駅南口 ～ロイズふと美工場	12.0 km	6 回	6 回	
あいの里線	J R 石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	17.5 km	8 回	8 回	土日祝日運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口 ～北海道医療大学	4.0 km	13 回	13 回	土日祝日運休
みどり野線	J R 石狩当別駅南口 ～みどり野会館	9.0 km	2 回	2 回	土日祝日運休
青山線	J R 石狩当別駅南口 ～青山会館	15.5 km	6 回	6 回	
SuiSui ふれバ	J R あいの里公園駅 ～区域内運行	区域内 運行	0 回	1 回	金曜・土曜 のみ運行

2. 設備の充実

2.1 待合所の設置

バスの待合環境を整備し、公共交通の利用促進を図るため、待合所を整備する。風雨だけでなく雪を防げることを考慮に入れて、待合所のデザインを決定する。現在3箇所設置されており、新規設置箇所はバス停の利用者数や降雪時の付近の状況を考慮し決定する。

また施設設置に際しては、その待合所のある地域や企業などが維持管理を行うこととして、地域が主体的に公共交通に関わるように促す。

設置概要

設置箇所	1箇所
------	-----

2.2 バス車両の購入

今年度の実証運行として市街地循環線の増便を図り、今まで4台で運行していたバス車両を5台に増やす為、車両を新規に購入する。乗降客の利便性を高める為、車両はノンステップバスとし、住宅地を走ることとバスの利用人数から全長7mの中型バスを導入する。

整備概要

乗車定員 30～40人程度

参考写真



2.3 音声映像案内システムの追加

同時に運行するバスを5台に増やす為、増車した車両に昨年整備した音声映像案内システムを設置する。車両によって乗客が受けられるサービスを変えないための措置として整備する。

設置概要

設置台数 1台（路線4台+予備1台の5台設置済み）

3. 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

3.1 モビリティマネジメントの実施

3.1.1 小中学生向けモビリティマネジメント

小中学生を対象として、社会学習の一環として総合的な学習の時間や社会科教育の中で、「交通すごろく」や「交通日記」の作成による交通行動を再認識や、二酸化炭素排出量の違い、使用済みてんぷら油から精製したバイオディーゼル燃料（BDF）でバスが走る仕組みについての環境学習を行う。その際、バスを学校へ持ち込みてんぷら油の臭いがする排気ガスの体験や、実際の路線を走らせる授業も行い、バス利用のきっかけとする。

また、移動展示会事業などの利用促進事業や、小中学生長期休暇限定定期などを利用して、公共交通への理解を深めながら、バスを身近なものに感じられるように取り組む。

実施概要

実施対象 当別町内小中学校

実施内容 交通すごろくの実施（小学校低学年）

交通日記の作成、BDFの授業（小学校中学年～中学生）

3.1.2 大学生向けモビリティマネジメント

バスの利用者層の一定割合を占める北海道医療大学の新生入生に対し、ふれあいバスの情報を提供し、学生生活の中にバスの利用を浸透させる。入学資料にバスの資料を入れることによって、アパートを選ぶ際にバスの停留所の近くを選ぶなどの行動につなげる。

実施概要

実施対象	北海道医療大学新生入生
実施内容	大学が送付する入学資料にバスのパンフレットを入れる 入学時オリエンテーションでのバス利用に関する説明

3.1.3 ニュースレターの発行

住民に対して公共交通への理解を深めてもらうには、公共交通の重要性に関する情報を発信する「事実情報提供法」が必要である。そこで、定期的にニュースレターを発行し、公共交通への理解と認知度の向上を図り、自発的な公共交通への行動変容を促す。

実施概要

実施対象	全町民を対象とし、町広報誌と一緒に配布
実施内容	年6回のニュースレターの発行、A4版両面刷り

3.1.4 交通マップの作成

バスの利用促進を図るため、バスの路線図・時刻表を作成する。持ち運びやすいサイズで作成して、他の交通機関の乗り継ぎ情報を記載し、公共交通の活性化を促す。ダイヤ改正に併せて作成し、全町に対してバスの情報周知に活用する。

作成概要

作成様式・部数	A2板8つ折り両面刷り、4色カラー、10,000部
配布箇所	全戸配布、バス車内、応援券販売所

3.2 バス祭りの開催

バス利用促進事業の一環として、公共交通と地球温暖化をテーマにしたイベントを開催し、来場者にふれあいバスへ乗車してもらい新たな利用者層の発掘を図り、利用者増へつなげる。

手法としては、DMVやボンネットバスなど珍しい車両の展示会を目玉として、来場者にはふれあいバスを利用したイベントを開催し、普段ふれあいバスを利用しない住民も乗車してもらえる企画とする。日曜日の開催ではあるが、その日は平日ダイヤで運行する。

その他、バイオディーゼル燃料や地球温暖化に関する展示や、交通に関するセミナーを体験してもらおう。ノーマイカーデーとしても実施し、会場に来る際には公共交通機関を利用するよう働きかける。

事業概要

開催日程	平成21年7月下旬または9月下旬の日曜日
会場	当別駅南口広場およびふれあい倉庫

3.3 バイオディーゼル燃料の利用促進とオフセット・クレジット事業の実施

昨年模索した使用済みてんぷら油回収システムの検証結果をもとに、平成21年度からは町事業として新規に回収業務を取り進めるが、本協議会においてもバイオディーゼル燃料の利用促進を図るため、継続してモビリティマネジメント等と連携した回収促進、回収量増加策の検証を行うこととする。

また昨年認証を受けた、環境省実施の二酸化炭素排出権を取引するためのオフセット・クレジットのモデル事業について、本年度から取引が可能となる。取引を進める中で、住民に対し地球温暖化問題についての啓発を図りながら、同様に二酸化炭素排出量を削減できるバス利用と関連させて、間接的に公共交通の利用を意識付けるよう周知する。

3.4 インターネットホームページの開設とコンテンツの作成

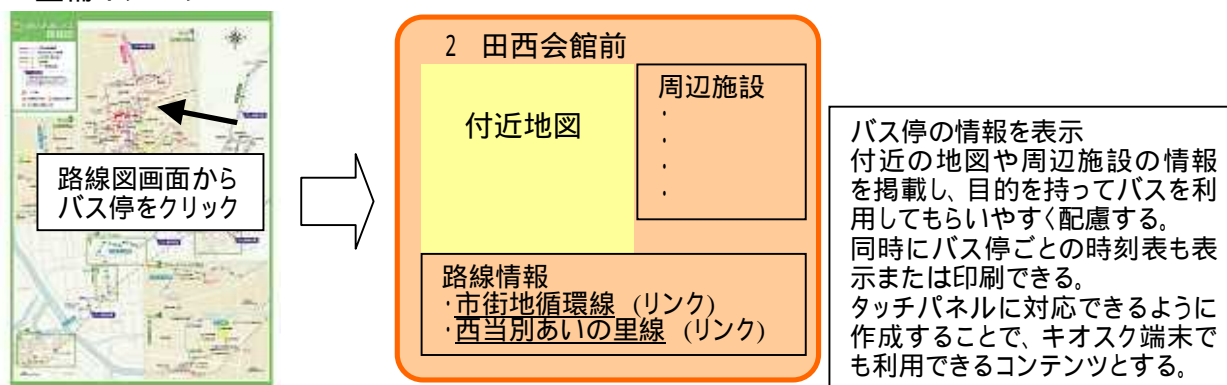
当別ふれあいバスの情報をインターネット上で公開するためのホームページの整備と、そこで公開するコンテンツを作成する。ホームページは、当別町が策定した地域情報化計画の中で整備を予定しているポータルサイト内に設置し、住民からのアクセス増を図る。また、コンテンツの作成については、駅前の情報提供システムに活用できるようにタッチパネル対応とすることと、更新が容易にできるように作成する。

整備概要

掲載内容

ふれあいバスに関する情報と路線図情報コンテンツ

整備イメージ



3.5 利用促進事業の実施

3.5.1 利用促進ツアー等参加型事業の実施

昨年度実施した利用促進ツアーでは、バス利用者の生の声を聞くばかりでなく、バスを通じた利用者同士の交流も行われ、大変好評だった。今年度も利用促進ツアーなどのバス利用者参加型の事業を開催し、利用者の定着を図る。

3.5.2 小中学生向け移動展示会とバス音声録音会の実施

小中学生を対象に、テーマに沿った絵を募集して、車体へ描いたり車内に掲示する移動展示会を一定期間開催することで、子供がバスに興味を持つきっかけとする。また、昨年度整備した音声映像案内システムの案内音声を小中学生の録音に変えるキャンペーンを行う。自分の音声がバスから流れることで、バスと主体的に関わりを持つきっかけとしたい。

4 . 調査・研究等

4 . 1 OD・アンケート調査事業

4 . 1 . 1 アンケート調査

行動プラン法を組み合わせたアンケートを実施して、交通に関する意識調査とバス利用への動機付けを行う。平成 21 年 4 月 1 日に改正したダイヤの周知も兼ねて、改正後早い時期での実施を予定。

調査概要

調査区域 くれあいバス路線運行区域限定

4 . 1 . 2 OD調査

実際にバスを利用している乗客の路線別のOD量を調査する。利用者属性、乗降停留所のほか、支払種別、乗換の有無など利用実態も調査する。昨年も同様の調査を実施しているが、昨年と同時期に実施して、ダイヤ改正に伴う利用者の変化の比較も行う。

調査概要

調査路線・期間 全路線、全便を夏季・冬季それぞれ 7 日間実施、計 14 回

調査方法 調査員がバスに乗車して、乗降者数をカウントする

4 . 2 デマンドシステム導入調査

現在運行している路線の中でデマンド化できる路線はないか、または現在当別くれあいバスが運行していない交通空白地でもデマンドによる運行ができないか調査を行う。町内会単位でのアンケート調査や関係事業者に対するヒアリング調査を行い、利用者層を発掘し、適正な路線と予約システムを検討する。

調査概要

調査対象 1 ~ 交通空白地町内会、くれあいバスの利用頻度の低い地区住民

2 ~ くれあいバス運行事業者、その他交通事業者

調査方法 アンケートによる利用動態調査・場合によってはヒアリング調査

4 . 3 バス利用者向けワークショップの開催

バスの利用者に対しては、アンケートなどを実施するほかは特に意見を聞く場を設けてはいない。町内会や大学生など、小規模で意見を聞くことができるワークショップを数回開催し、より良いバス運行へ結びつける。

開催概要

対象 10 ~ 15 人程度のバス利用者、町内会や大学生、高齢者クラブなど

実施方法 バス利用者グループと協議会事務局やバス運行事業者との意見交換等